オンライン・コミュニケーションにおける「世論」と公共圏の分化をめぐる日韓比較調査

Research for on-line “Opinions” and Differentiation of the Public Sphere Comparing Japan with Korea

高橋顕也（京都大学大学院人間・環境学研究科　博士後期課程）

【メンバー】

車愛順（京都大学大学院人間・環境学研究科　博士後期課程）

【ねらいと目的】

本研究のもっとも基本的な関心は、オンライン・ネットワーク上における公共圏のあり方にある。公共圏は、近現代社会の諸機能システムから相対的に離れた位置をとり、それらを対象化するコミュニケーションを行いつつ機能システムの反省を促す場であると捉えることができる。そして、そのような場の成立を可能にする条件のひとつが、メディアというインフラストラクチャーに他ならない。現代に至るまでそのメディアの役割を独占していたのは、新聞やテレビをはじめとするマスメディアであった。そして、公共圏におけるコミュニケーションのテーマである「世論」もマスメディアのもつ構造に条件づけられてきた。しかし近年、オンライン・コミュニケーションの日常化により、マスメディアから相対的に自律した新しいコミュニケーション空間が生じてきている。この空間が、公共圏の内部においてマスメディアという環境に対してどのような自律性と関係性を有しているのかを明らかにしたい。

【活動の記録】

2009 年 2 月 20～26 日

韓国ソウル市　資料収集（高橋顕也）

2 月 20 日～3 月 6 日

韓国ソウル市　資料収集、現地調査（車愛順）

【成果の概要】

【A】ブログの引用にみる時間の影響

時事話題を通して受ける時間の影響という点からはまとめると、日本ブログでは引用の有無や時差に時間の影響がみられるが、韓国ではそのような影響はみられない。日本･韓国双方に影響がみられるのは引用元であるが、参照先が日本では既存のマスメディアに向かうのに対して、韓国ではウェブメディアに向かう傾向がある。以上の点に関して言えば、日本によりも韓国のオンライン・コミュニケーションの方がより強く時間次元で自律性を現象させると言うことができるだろう。

【B】ブログと新聞の比較

時事話題については、日本・韓国ともに焦点差あるいは期間差という形で新聞とブログの相違が現れていると考えてよい。

その要因として、新聞とブログの関心の相違が日本・韓国で共通である。

対して、日本でのみウェブメディア独自のソースが挙げられる。今回の調査では、韓国

でマスメディア独自のソースを元に時事話題を論じた記事はみつけられなかった。しかし、韓国のブログではそもそも引用をする割合が比較的少ないこと、また「一人メディア」としてブロガー自身の政治的意見や訴えを書く傾向があることを考慮すると、日本にのみウェブメディア独自のソースがみられることは、韓国のオンライン・コミュニケーションの自律性を日本よりも低く評価する理由にはならないと考えられる。

今回は時間次元の現象に焦点を当てて全般的な傾向・特徴を抽出したが、以上の諸観点についてはさらに、ブログ記事の質的な内容分析によってより詳細に解明される必要があるだろう。